

様式【学校評価資料】

清音小学校

学校 経営 目標	具体的計画	令和4年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価	
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ	自己評価の適切さ
1 心の 教育の 充実	子ども同士が互いを認め合い、自他を大切にする気持ちをもって、楽しく学習や生活ができる集団づくりを進める。(心優しい子 礼儀正しい子 総社を愛す子)	①わたしは、友だちのことを考えて行動しているという回答が90%以上である。(児童,保護者,教職員)	教職員:92% 保護者:91% 児童:93% 評価委員:100%	A	・9割以上の回答があったので、1学期同様に日常生活指導に加え、SEL,道徳科学習,ピア・サポート活動を通して友達のことを考えて行動ができるように、引き続き指導をしていきたい。	教職員:92% 保護者:91% 児童:93% 評価委員:100%	A	・前回の取組に引き続き、「さらりの木」の取組や思いやりのある児童の紹介などを行うことで、全体的に思いやりのある言動が増えてきている。今後も教職員や保護者、地域の方で連携しながら、指導をしていくようにする。	・自己評価は適切である。 ・児童・保護者・教職員ともに評価基準を上回っており、取組は十分達成されていると評価される。今後も引き続き、よりよい人間関係づくりを進めていってほしい。	
	アンケート調査や教育相談を定期的に行い、いじめを許さない環境づくりに努め、いじめを早期に発見し、確実に解消する。	②自分にはよいところがある(子供の自己肯定感を高める声掛けや指導を行っている)と思うという回答が90%以上である。(児童,保護者,教職員)	教職員:96% 保護者:86% 児童:93% 評価委員:100%	B	・昨年度と比べても、児童の肯定的な回答が増えているので、さらりの木の取組を継続する。保護者にも周知してもらえよう、取組の紹介を学年便り等で行ったり、参観日に教室に掲示したりする。	教職員:100% 保護者:87% 児童:92% 評価委員:100%	B	・質問の問いかけ方が曖昧で回答が難しいと感じる保護者がいたように思われる。アンケートの項目を見直し、より分かりやすい問いにする。	・自己評価は適切である。 ・保護者が評価基準を下回ってはいないものの、「そう思う」と回答した保護者が37%から48%に増加していることは評価される。	
	目的に応じて根拠や理由を示しながら、自分の考えを伝えあうことのできる児童の育成を目指し、授業づくりに取り組む。	③いじめの未然防止、早期発見、対処等の取組を行っているという回答が90%以上である。(児童,保護者,教職員)	教職員:100% 保護者:85% 児童:94% 評価委員:100%	B	・いじめの未然防止のためにアンケート等をしていることを周知し、児童も保護者も気になることを相談しやすい雰囲気づくりに努める。	教職員:100% 保護者:90% 児童:93% 評価委員:100%	A	・児童へのアンケートで学校が楽しくないと回答した児童に対して担任と話をしたり、保護者と相談して連携を取ったりすることで、不安の解消やいじめの未然防止など解決に努めた。引き続き安心して学校生活が送れるよう保護者と連携を図ってきたい。	・自己評価は適切である。 ・児童・保護者・教職員ともに評価基準を上回っており、取組は十分達成されていると評価される。今後も未然防止に力を入れていってほしい。	
2 学力の 向上	基礎学力定着と学習意欲の向上につながる家庭学習を模索し、家庭学習の習慣化を進める。	④自分の考えを伝えることができる(自分の考えを伝えあうことのできる児童の育成を意識した授業づくりをしている)という回答が90%以上である。(児童,保護者,教職員)	教職員:96% 保護者:75% 児童:87% 評価委員:100%	B	・授業中に自分の考えを表現する時間を確保する。また、考えを書いているノートを紹介したり称賛したりすることで、意欲的に自分の考えを書くことができるようにする。 ・学級全体の前で発表する方法として、言葉で説明するだけでなく、教材提示装置やタブレットを用いることで、言葉で伝えることが苦手な児童も自分の考えを全体に提示することができるようにする。 ・協同学習を単元内で重点的に行うことのできる授業を単元計画内に位置付ける。	教職員:96% 保護者:77% 児童:87% 評価委員:100%	B	・授業中に自分の考えを表現する時間を確保する。学級全体の発表だけでなく、ペア学習や協同学習を充実させることで自分の考えを伝えたり、自分の考えが伝わったと実感したりする機会を保障する。 ・言葉で説明するだけでなく、教材提示装置や学習用端末を用いることで、言葉で伝えることが苦手な児童も自分の考えを全体に提示することができるようにする。	・自己評価は適切である。 ・保護者と児童が評価基準を下回っているものの、この数値が悪いわけではない。 ・質問の内容が難しいと感じたのではないかと、より分かりやすい問いにするか、アンケートをすどときに具体的に説明したほうがよい。	
	外遊びや業間運動等を通じた体力づくりとともに、保健安全指導や給食指導や食育等を通じた健康な体づくりに努める。	⑤宿題など、家庭で目標時間を意識して学習している(家庭と連携して、家庭学習の定着に取り組んでいる)という回答が90%以上である。(児童,保護者,教職員)	教職員:100% 保護者:81% 児童:92% 評価委員:100%	B	・それぞれの学年の目標時間を意識した宿題を教師側も出すようにする。あわせて、保護者も目標時間を意識することができるよう、引き続き啓発を行う。 ・宿題を出す時に、児童が必要を感じるような宿題を出すようにする。 ・自主学習については、引き続き目標時間に達していない児童に呼び掛けるとともに、自主学習ノートの紹介を定期的に行うことで、参考にしたり意欲を高めたりすることにつなげるようにする。	教職員:86% 保護者:81% 児童:92% 評価委員:100%	B	・それぞれの学年の目標時間を意識した宿題を教師側も出すようにする。あわせて、保護者も目標時間を意識することができるよう、引き続き啓発を行う。 ・自主学習については、自主学習ノートの紹介を定期的に行ったり、自習学習の例を具体的に示したりする。さらに、教室に自主学習に活用できる復習プリント等を準備することで意欲を高めることができるようにする。	・自己評価は適切である。 ・教職員間の共通理解、保護者への啓発と連携の必要を感じる。	
3 健康・ 体力づ くり	メディアコントロールを推進し、家庭と協力しながら基本的な生活習慣の定着に努める。	⑥体力づくりや、心身の健康の保持・増進に努めているという回答が90%以上である。(児童,保護者,教職員)	教職員:96% 保護者:92% 児童:89% 評価委員:100%	B	・いきいき岡山っ子☆運動習慣カードに取り組む際に、運動のよさを健康面等からも伝えて、児童の内発的動機付けを高めたり、頑張っている学級を紹介したりする。 ・運動委員が業間休みに外で体を動かす企画を考えたなど、児童発信の取組を強化する。	教職員:96% 保護者:94% 児童:90% 評価委員:100%	A	・週2回、業間体育で縄跳びやチャレンジ走に全校で取り組むことで、体力づくりに励むことができるようにする。 ・給食センターえがお学校訪問での給食指導や保健委員会、給食委員会の取組を通して健康な体づくりに対する意識を高めることができるようにする。	・自己評価は適切である。 ・各種の取組の成果が体力向上という結果として表れているのはすばらしい。	
	保護者や地域の人たちと協力して安全な登下校に努める。(総社を愛す子)	⑦メディアコントロールに努めているという回答が80%以上である。(児童,保護者,教職員)	教職員:87% 保護者:64% 児童:81% 評価委員:87.5%	B	・親子スマホ教室や学級懇談、保健だよりなどで保護者にもメディアコントロールの協力を得られるようにする。 ・さらりカードの積極的活用(頑張っている児童を褒めたり、学級で紹介したりするなど)を図る。 ・家庭のルールを決める機会を提供し、児童と保護者、学校での連携を図る。	教職員:100% 保護者:66% 児童:80% 評価委員:100%	B	・情報モラルの授業などからメディアコントロールの大切さを児童が実感できるようにする。 ・さらりカードに取り組む際に、メディアコントロールを守ることで、できにくい児童へ個別に声掛けしたり、励みになる評価をしたりすることで一人一人の意識を高めることができるようにする。学校保健委員会でも学校の現状や取組を保護者へ知らせる。	・自己評価は適切である。 ・これから益々メディアコントロールの実現は難しくなっていくと考える。大人が子供の見本となり、一緒にルールを考える姿勢を示す必要がある。	
4 開か れた 学校 づく り	保護者や地域の人たちと協力して安全な登下校に努める。(総社を愛す子)	⑧保護者や地域の方々と協力して安全な登下校に努めているという回答が90%以上である。(保護者,教職員)	教職員:100% 保護者:92% 評価委員:100%	A	・現状通り継続して推進する。	教職員:100% 保護者:93% 評価委員:100%	A	・PTA活動の「ひまわりパトロール」や地域の「清音っ子守り育てる会」での見守り等、学校外の協力を得、安全な登下校に努めることができている。今後も継続していきたい。	・自己評価は適切である。 ・教職員・保護者ともに評価基準を上回っており、取組は十分達成されていると評価される。	
	お便りやホームページ、参観日や懇談会等で学校の様子や子どもの様子を知らせ、保護者や地域の方に信頼される学校づくりを行う。	⑨お便りやホームページ、参観日や懇談会等で、学校の様子や子どもの様子について家庭へ情報を伝えているという回答が90%以上である。(保護者,教職員)	教職員:100% 保護者:92% 評価委員:100%	A	・現状通り継続して推進する。	教職員:100% 保護者:95% 評価委員:100%	A	・学校評価アンケート等でいただいた意見を基に、ホームページ等を改善することができた。今後も様々な機会を通して、教育方針や教育活動の様子を伝えていきたい。 ・細やかな家庭連絡を心掛けることができた。一層家庭との連携を図り、児童や保護者の安心につなげていきたい。	・自己評価は適切である。 ・教職員・保護者ともに評価基準を上回っており、取組は十分達成されていると評価される。	